

## “和音色”を視点とした幼児の音楽的感性

### A Study of Infant Musical Sensibility in the Light of Tone Color of Chords

武田 道子  
Michiko TAKEDA

(平成5年10月12日受理)

#### I 問題と目的

現在の目まぐるしいまでに多彩、かつ激動のマスコミを主軸にした音楽環境……この時代性の中に生きる現代幼児の音楽的行動<sup>①</sup>を観察している時に、特に受容の側面で、思わずはっとする場面に遭遇することがある。

(子) “先生「小さい秋見つけた」ひいて!”

(保) — エレクトーンの簡易伴奏で歌

(子) “そうじゃないの —  ..... (前奏部を模唱) みたいにやって!”

(保) — エレクトーンの本格伴奏で歌

(子) “うわーうれしい。先生、足もやって!”

まさに、これは和声にかかわる子どもの感性を示す喜ばしい事例の一つである。

「和音～和声の知覚は後天的なもの」<sup>②</sup>とする従来からの通説に対する子ども達からの挑戦状のような気さえるのである。そして、このよって来たる所を、その恵まれた音楽環境としたならば、それはやや即断に過ぎるであろうか?。ともかく、家庭や社会の中での自律的な初期学習—この発達観の重みを今更のように痛感するのである。

さて、これらの子どもの和音～和音の受容にかかわる事例を精査してみると、特に和音に見る陰影・色彩の味わいからくる感性の側面で感じとっている例が多いことに気づくのである。つまり、聞いた和音を和音色の視点で捉えているのではないだろうかということである。主題への発想は、このあたりからのものと言える。

さて、この主題のために、次の留意事項を置かねばならない。

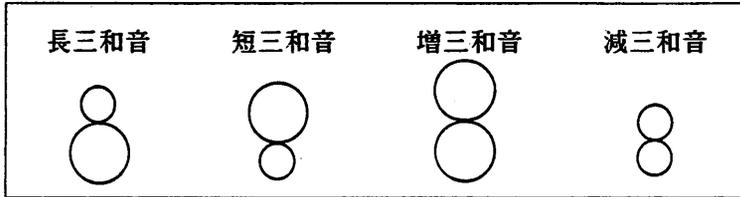
☆ 筆者による発表論文「和音色の識別能力の発達」<sup>③</sup>の内容との連繫。

\* 和音色の概念規定

和音色とは、長・短・(増)・(減)の4種の三和音のそれぞれが醸し出す特徴的な印象の意である。

これを、模式図に示すと次のようになる。

図1 和音の構成



注) ○は長3度、○は短3度を示す。

つまり、長・短二つの3度音程の重なりに象徴される安定と不安定の因子が和音への印象に結ばれると考えることができる。

\* ここでの研究の対象は、“和音色の感性的印象”の側面であったこと。

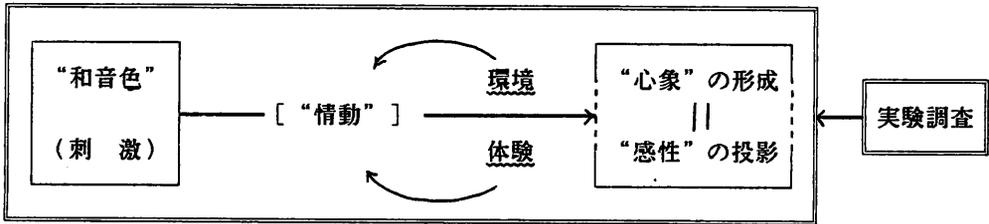
注) 音楽に情緒内容を盛る素材としての三和音がもつ“色彩的性格”の弁別

これに対し、今回は、“和音色の感性的印象”の側面が研究の対象であること。

注) 和音色感覚に支えられた感情部分——その感性的イメージの形成

さて、以上により、研究目標への構想について、次のような図式(図2)を頭に描くことができる。

図2 研究目的への構想



指向するところは、“幼児の心を育てる音楽の世界”・“味わいの音楽の世界”である。本研究で、その主軸となったこの“感性的イメージ”の視点も、またここに発するものである。

## II 実験調査の方法

### 1 対象

静岡市北安東保育園・焼津市港幼稚園・焼津市宮島幼稚園

浜松市早出幼稚園・東京学芸大学付属世田谷小学校(小一)

[被検者数]

: 年少児 129名 (男69・女60) : 年長児 210名 (男113・女97)

: 年中児 181名 (男94・女87) : 小一児 117名 (男 58・女59)

2 実施日 1991年9月~12月

3 内容

(1) 課題「はい、それでは二つの音であてっこをしましょう。はじめの音はこれです。

Ⓜ ピアノ(長三和音- $\dot{C}\dot{E}\dot{G}$ を2回)

さあ、どんな感じがするかな……先生はね、“とんぼがとまっているみたいだな”って思いました。みなさんはどうかな? —— (結果の処理)」

「はい、それでは次の音です。

④ ピアノ (短三和音- $\dot{C}\dot{E}_s\dot{G}$ を2回)

さあ、今度はどうでしょう。先生は……そうそう赤ちゃんのオルゴールを思い出しました。  
さあ、みなさんは? —— (結果の処理)」

(注) 課題に設定された和音は、七音の音楽の世界を2分する Dur と Moll の基軸にもかかわる長・短二種の、協和和音 (Durdreiklang・Molldreiklang) に限定。さらにピアノの中音域  $\dot{C}\sim\dot{G}$  の完全五度内に作られる C-Dur・c-moll の主和音に該当する C E G・C E<sub>s</sub> G とした。これは、比較の条件を和音色に焦点化して、そのイメージ化を容易にさせたいとする年齢発達への配慮である。また、増・減二種の不協和和音を除外したのは、これらのいずれもが長調と短調の主要三和音 (T・D・S) に現れないということによるものである。

(2) 実施要領

[幼児]

- \* 他の子への影響を考慮して、男女別・5~10名の小グループの実施とする。
- \* 口答とし、子どもの生の声をそのままに記録用紙に記入する。

[小一児]

- \* 個別・筆答とする。

—— 以上を各クラス担任に依頼

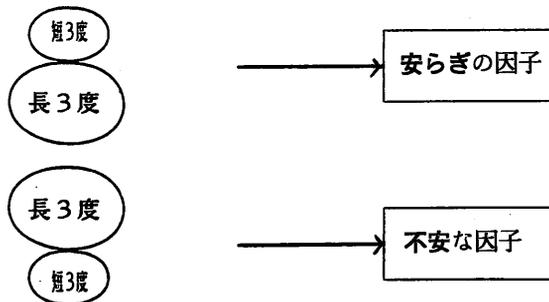
Ⅲ 結果と考察

☆ 事例の評価基準について

結果のまとめに不可欠な、子どもの口答・筆答 (小一) に対する評価の尺度は、楽理にかなう“和音色の味わい”にその基礎を置かねばならない。即ち、次のようである。

- \* 長3度…… “基音に含まれる一つの倍音そのもの” → 明るさの因子
- 短3度…… “基音に含まれる倍音に衝突する濁り” → 暗さの因子
- \* 長三和音

短三和音



子どもの感性を写す具体的なイメージに対する処置は、ことの性質上まことに困難なことであるが、以上を以て評価の基準~尺度にすることとした。

1 イメージに見る感性

実験調査から、その結果の概要、及び考察への骨子となる視点を総括して表1「感性に結ぶ幼児のイメージ」を得ることができた。

表1 感性に結ぶ幼児のイメージ

	年少		年中		年長
	男	女	男	女	男
長 三 和 音	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小鳥さんが歌ってる</li> <li>・笑ってる</li> </ul> <p>2例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピンぐりがこがる音</li> </ul> <p>1例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にっこりしている</li> <li>・クリスマスがきた音</li> <li>・お城だったらいいなあ</li> </ul> <p>など4例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にこにこしているみたい</li> <li>・遊んでいるみたい</li> <li>・元気になったみたい</li> </ul> <p>など7例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで歌ってるみたい</li> <li>・"アの子がつくから"の歌</li> <li>・すべり台で遊んでいるみたい</li> </ul> <p>など6例</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・いい音</li> <li>・きれいな音</li> </ul> <p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いい音</li> <li>・きれいな音</li> <li>・バイオリンの音</li> </ul> <p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お花が咲いている</li> <li>・結婚式のゴーンとなる音</li> </ul> <p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虫の声</li> </ul> <p>1</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・りんごを食べる音</li> </ul> <p>1</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちがいい(+1)</li> <li>・流れ星に乗っているみたい</li> </ul> <p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちがいい</li> <li>・とんぼが青い空を飛んでいる</li> </ul> <p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉っぱが揺れているみたい</li> <li>・風が吹いている(+1)</li> </ul> <p>3</p>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の音</li> </ul> <p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るい空</li> <li>・お日曜が出てくる音</li> <li>・開ける音</li> </ul> <p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝みたい</li> </ul> <p>1</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・蝶々が花に止まっている</li> <li>・蜂が蜜をのんでいるところ</li> </ul> <p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花に止まっている感じ</li> <li>・蜂の巣に引っかかっているみたい</li> </ul> <p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静かになる</li> <li>・蝶々がとまった</li> <li>・下の音</li> </ul> <p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉っぱが風で落ちたところ</li> <li>・車が止まる音</li> <li>・蜂がチクンと刺したところ</li> </ul> <p>9</p>
	3	5	15	17	20
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お化けの音</li> <li>・こもり</li> <li>・誰か来る音</li> </ul> <p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お化けの音</li> <li>・変な音</li> </ul> <p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お化けが風に揺れているみたい</li> <li>・魔女がとんだ音</li> <li>・食べられちゃいそう</li> </ul> <p>19</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悪い音</li> <li>・気持ちが悪い</li> <li>・お化けがそっと出そう</li> </ul> <p>10</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・猫がそっと扉を取りに行く所</li> <li>・そっとする音</li> <li>・悪意が襲ってくるみたい</li> </ul> <p>17</p>



短	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メリーゴーランド     みたい</li> <li>・お月さま</li> <li>・笛の音</li> </ul> <p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キラキラ星</li> <li>・浅野先生がお船様のピアノを弾いているみたい</li> </ul> <p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土星が回っている</li> <li>・夢の中に出てくる音</li> <li>・雪が降るみたい</li> </ul> <p>9</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虹が出ているみたい</li> <li>・月がにっこりしているみたい</li> <li>・流れ星みたい</li> </ul> <p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕焼け</li> <li>・夢見る感じ</li> <li>・メダルをくれる時の音みたい</li> </ul> <p>5</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悲しい</li> </ul> <p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泣き虫さん</li> </ul> <p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・死んじゃった音 (+1)</li> <li>・泣いている</li> </ul> <p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悲しそう</li> </ul> <p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・死んだ人をお見舞に行った時</li> <li>・悲しい</li> <li>・泣いている</li> </ul> <p>5</p>
和	<p>／</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・船の汽笛の音</li> </ul> <p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふくろうが鳴いている</li> <li>・雨が降る</li> </ul> <p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時計のボーンとなる音</li> <li>・汽笛がボーン</li> </ul> <p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さみしい</li> <li>・貯金箱にお金落ちる音みたい</li> <li>・海の水</li> </ul> <p>5</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜</li> </ul> <p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暗いなあ～</li> <li>・からすみたい</li> </ul> <p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜になつたみたい</li> <li>・曇っているみたい</li> <li>・暗い感じがする</li> </ul> <p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜みたい</li> </ul> <p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜みたい</li> <li>・月が落ちてるみたい</li> </ul> <p>2</p>
音	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メロン</li> <li>・レモンの音</li> </ul> <p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・果物を食べる音</li> </ul> <p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・線香花火みたい</li> <li>・クリップ</li> <li>・葉っぱの音</li> </ul> <p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃが回っているみたい</li> <li>・金魚が跳ねる音</li> <li>・バナナをむいた音</li> </ul> <p>8</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サフランが落ちたみたい</li> <li>・魚が跳ねる音</li> <li>・鶴が飛んでいる</li> </ul> <p>7</p>
	<p>／</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蝶々が眠っている</li> <li>・虫が餌を食べる音</li> <li>・笛が寝坊をしている</li> </ul> <p>3</p>	<p>／</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流れ星がとまるとき</li> </ul> <p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車で急ブレーキをかけてる     みたい</li> <li>・おじぎをする時の音</li> <li>・かたつむりさんみたい</li> </ul> <p>3</p>
	10	12	41	28	44

・お月さま 1	・夜の空に月が出ているみたい ・じいんとするよう ・星を見ている感じ 10	・流れ星が飛んでいるみたい ・お月さまが出てくる音 ・星のつたみたいな感じ 11	G きれい 46	陰      性      的
・お友達がさよならする時ないちゃった ・かわいそうみたい ・とんぼがね泣いている 4	・道に迷って泣いているみたい ・かわいそうみたい ・人が泣いているみたい 8	・涙の子が泣いている ・みんなとさよならしてるみたい ・悲しくて泣いている 14	H 悲しい 37	
・雨ふり ・風がフューフュー泣いている ・さびしそう 5	・枯れ葉が落ちる音 ・さびしくて月のよう ・つらいおと 8	・雨の日みたい ・夜・犬が吠えてるみたい ・暗くなって出かけるみたい 10	I さびしい 33	
・押し入れの中にいるみたい 1	・夜になってくる音 ・夜の空 ・夜の海の音みたい 8	・電気を消したみたい ・夜の音みたい ・暗い音 5	G 暗い 23	
・人形が喋っている ・ねずみが歩いているみたい 2	・風がとんでる ・さわやか ・教会のかねの音 4		K やさしい かわいい 29	
・ご飯の時間にお祈りをしている 1			L ※2 「安定感」 8	
31	42	46	254	

※1・※2 ----- 「補遺欄」を参照

なお、この表1のために若干の(注)を添えると次のようである。

- ・ この表は、保育者によって記録された子どもの<sup>なま</sup>生の具体的なイメージのうち、基準尺度に照らして妥当の圏内にあるものと評価された主なものについての一覧である。AからLにわたるイメージ群毎の、そこから抽出された“感じ方”の因子による類型化、および長・短三和音の別、年齢の別、性の別毎の頻数化などがその内容である。
- ・ 事例は3例までとした。
- ・ 小一の実験データは、感性の育ちに関する幼・小の関連……その展望に資するための参考である。

なお、ここでは、調査の方法が個別・筆答の形であったことから、頻数面での幼児との単純・不用意な比較・対照は慎重にしたい。

以下、内容の精査に移ることにする。

### (1) 長三和音の受容にみるイメージ

[イメージ群—— A]

感性への因子「楽しい」の感じ方でくくられたこの事例群は、その頻数41(幼30・小一11)を教え、今回の調査ではトップに位したものである。イメージするところは、「笑い」・「遊び」・「歌」など子どもの生活経験へのつながりが中心である。

なお、事例“どんぐり”にみる奇抜さ、“猫のダンス”に見る子どもらしさ、“ア”の字がつくから”にみる感覚→感性の育ち、又“お城”の発想にみる男の子らしさなど、いずれも異色のものとして注目に値しよう。最後の“お城”の事例は、「安定感」(※1)の柱への関わりも持つ。

[イメージ群—— B]

感性への因子「きれい」の感じ方でくくられたこの事例群は、その頻数32(幼12・小一20)を示し、イメージする素材——「音」・「花」等への高い確率が目立っている。このうち「音」としての捉え方では、擬音・擬声など描写的な感じとり方、“いい音”のような“いい気分”そのままの響きの協和感からくるものが特徴的である。

[イメージ群—— C]

感性への因子「気持ちがいい」の感じ方でくくられたこの事例群は、その頻数27(幼13・小一14)。例えば、“乗ってる”・“飛んでる”・“揺れてる”・“吹いてる”・“泳いでる”の様に、連想の中に「動き」の要素を含めた具象化が目立っている。また、ここでも文字通り「気持ちがいい」という和音の持つ雰囲気・気分をそのままの捉え方の傾向が顕著である。この抽象的な次元の表現の中には、発達面の要素のちらつきを認めることができる。

[イメージ群—— D]

感性への因子「明るい」の感じ方でくくられたこの事例群の頻数は最少の19(幼5・小一14)例である。幼児の発達に照らして、「楽しい」→「きれい」→「気持ちがいい」、そしてこの「明るい」の序列を考えた時、また見逃せないものを覚えるのである。素材的には、「お日さま」・「朝」・「空」など多彩ではあるが、領域「環境」に包含される「自然」の題材が圧倒的である。異色のものとして「開ける音」・“……真っ赤な色みたい”は楽しい。

[イメージ群—— E]

累計37(幼23・小一14)例にも及ぶ※1「安定感」のイメージにみる姿態は、ここでもまた

多様であるが、その代表例として“蝶々が花にとまっている”の形態を取り上げることができる。そして、このE群は、異次元の要素を含むものとして、更に別次元の考察を必要とするものである。このことについては、『補遺——イメージ群のまとめ「安定感」(※1・※2)について』に譲ることとする。

さて、以上を総括して、「長三和音の受容にみる感性的イメージ」(A～E)は、表1に示すように「陽性的」なカテゴリーのものと断ずる事ができよう。

## (2) 短三和音の受容にみるイメージ

[イメージ群—— F]

音の受容を「こわい」の因子で受け止めた事例は、78例(幼68・小10)の多きを数え、長・短両三和音を通じて最高の頻数である。

つまり、「こわい」の感情こそは、子どもの心を刺激する原初的なものなのである。素材としては、「お化け」への連想を筆頭に、“魔女”・“恐竜”・“落とし穴”・“びっくり箱”・“夜”・“こうもり”などなどイメージの対象や場面への設定にこと欠かない。この因子こそは重大である。

なお、この「こわい」は、Jの「暗い」イメージに連鎖するものである。

[イメージ群—— G]

音の受容を「きれい」の因子で受け止めた事例は、46例(幼25・小21)を数え、短三和音に関わる次位の事例数である。そして、“笛の音”・“虹”・“キラキラ星”・“夕焼け”・“お月さま”・“お星さま”・“メリーゴーランド”・“夢”などが、子どもにとってG群を代表する「きれい」な素材である。ここでは、次の点が興味深い。つまり、前出Fの「こわい」に対し、このGの因子「きれい」は、情緒的に逆次元のものであるということである。しかし、ここに短三和音の本質に根ざす相容れる和音感を認めることができるのである。

[イメージ群—— H]

頻数37(幼15・小22)。この「悲しい」の因子でまとめられたHグループは、Moll-dreiklang がもつ和音色感のもう一つの大きな「顔」である。そして、次項I群の「さびしい」イメージにも近似の要素を含んでいる。事例では、抽象的・概念的に悲しい気分を表出するものがかなり目立ち、具象的には、“泣いている”・“死んじゃった……かわいそう”の表現が主流を占めている。“さようなら”・“迷子”・“泣き虫”などには、幼児らしい想いが込められている。

[イメージ群—— I]

感性への因子「さびしい」の感じ方でくくられたこの事例群は、その頻数33(幼15・小18)で、内容的にHの「悲しい」類別のものに隣接し、互いに連動し合う関係にある。しかし、内容的には微妙な違いをみせている点に注意しなければならない。

イメージのテーマは「自然」に関するものが多く、具体的にはまことに多種多様である。“汽笛”・“ふくろう”・“時計の音”・“枯れ葉”など叙情的なものが目につく。

[イメージ群—— J]

感性への因子「暗い」の感じ方でくくられたこの事例群はその頻数23(幼10・小13)で、感情的に類別F「こわい」の領域に関連している。

そして、この「暗い」イメージの主役は、男女を通じて「夜」であり、それが“海”・“空”・

“月”などの自然、また“電気”・“押し入れ”などの生活につながれてイメージされている。また、“曇り”・“からす”などは異色の表現として評価できるであろう。

[イメージ群—— K]

感性への因子「やさしい・かわいい」でまとめられたこの事例群は、その頻数29（幼25・小一4）で、G群の「きれい」につながる性格である。

そして、短三和音のもつ独特の和音色に発した「やさしい・かわいい」情感の表現は、ここでもまた誠にきめ細かく多彩である。醸成されたイメージから、味わい深いものを拾ってみると、“メロン”・“果実を食べる音”・“線香花火”・“クリップ”・“葉っぱの音”・“サフランが落ちた音”などがある。

[イメージ群—— L]

累計8（幼8・小一0）という低い数字にとどまった※2「安定感」の事例は、※1長三和音の場合の37例に比べて、極端な様変わりである。このあたりの事情には、また更に別の観点があるはずである。これも「安定感」の設定理由に合わせて、別掲「補遺」のなかで説述したい。

事例“ごはんの時のお祈り”は傑作である。

さて、以上を総括して「短三和音の受容に見る感性的イメージ」（F～L）は、表1に示すように、「陰性的」なカテゴリーのものと断ずる事ができよう。

『補遺』—— イメージ群のまとめ「安定感」（※1・※2）について

ここでは、長三和音から導かれるイメージ群E、短三和音からのL群に対する「安定感」のまとめ方について、和声学的な考察を試みながら注釈を置きたいと思う。

本実験は、すでに明らかなように、単独和音の揭示という「音の受容」の形のなかで行われた。事例E群・L群にみる“静止感”・“終止感”の情感は、この方法からくる主和音的な性格に発するものであって、機能と声学の根幹に根ざす帰結である。

そして結果は、長三和音において実に37例という優位の頻数である。短三和音の8例という低位は、小さな短3度の上に大きな長3度の音程がのった形……言わば達磨の逆立ちという和音の組成からくる陰性的要素の仕業として納得できるものである。

以上を模式的に例示すれば次のようである。

静止感—— “葉っぱが風で落ちたところ”

終止感—— “流れ星がとまる時”

要するに、和音色感覚に始発する具体的なイメージは、ここでは和音のもつ機能の側面にプラスして反映されているということになる。他の事例群とは、別枠の「安定感」とした所以である。不安定要素をかかえた短三和音※2では、このあたりへの理解が特に必要である。

## 2 和音の種別と感性

表2は、事例の頻数から得られたパーセンテージの一覧で、ここからは和音色→心象→感性の育ちの全容を展望することができる。

表2 和音の種別から見た適合率

	年少	年中	年長	小一
長三和音	22.9%	39.2%	47.2%	79.6%
短三和音	50.3%	71.9%	73.2%	92.6%

- 事例の評価基準への適合率は、約30%の大きい開きで短三和音が長三和音の上位にある。要因は“味わい”の差と考えられる。  
 長三和音…自然、気にならない、あたりまえの音  
 短三和音…個性的、印象的、深さ、細やかさ、多彩～イメージし易い
- 小一の長・短の差が13%にすぎない点、及び年齢発達の面で顕著なものがある点には特に注意を払わなければならない。

3 性差・年齢差と感性

表3は、これも表1の頻数から得られたパーセンテージの一覧で、ここからは性差・年齢差に関わる傾向をみてとることができる。

表3 性差・年齢差にみる適合率

	年少	年中	年長	小一
男	26.8%	50.2%	49.3%	80.4%
女	46.4%	60.9%	71.1%	91.8%
男女	36.6%	55.6%	60.2%	86.1%

\* 性差について

年齢毎に、下から概ね20%～10%～20%～10%の男・女差の開きが認められ、いずれの場合も女兒が優位である。しかし、心象表出の内容面では、女兒の実感的な態度に対して、男児の詩的・ロマンチックな空想の世界に遊ぶ特徴に気づくことができる。

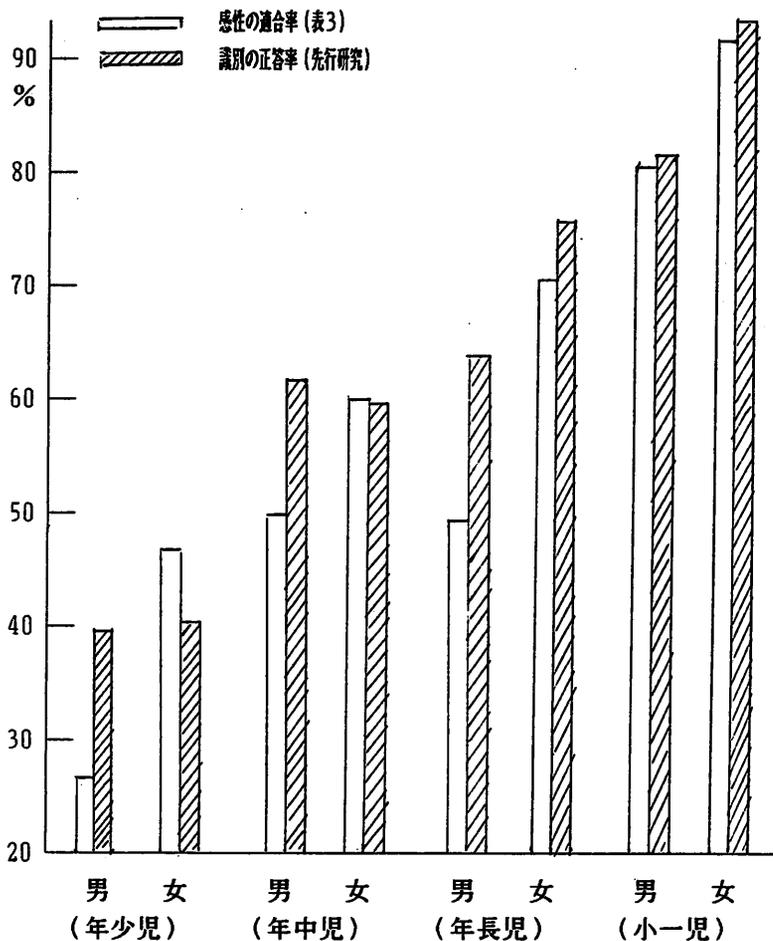
\* 年齢差について

発達的に見れば、年少～年中で約20%、年中～年長で約5%、年長～小一で約25%の伸び率である。このうち年長～小一での育ちは特筆すべきものと言わねばならない。

4 和音色識別の能力と感性

筆者による先行研究論文「和音色の識別能力の発達」<sup>⑧</sup>の中の“和音色識別の正答率”と表3をグラフ化したものとを対照することで、「和音色識別の能力と感性」の考察が可能である。

図3 和音色識別の能力と感性



すなわち、識別力と感性の伸びを示す男女の平均値によるふたつのカーブは、(年長児で10%程の差異を認めるものの) 総体においては、見事な相似形を示す発達傾向である。

ただし、年少～年中にみる感性の発達の性差については、感覚のそれに照らして要注意である。要因は、男児の言語発達にあると見られる。音楽的に決定的な劣性ではないことが、前項の「性差の考察」でも明らかだからである。

以上、「感性の育ちは、和音色感の育ちに対応して深い相関関係にある」と結論することができる。

#### IV 結論

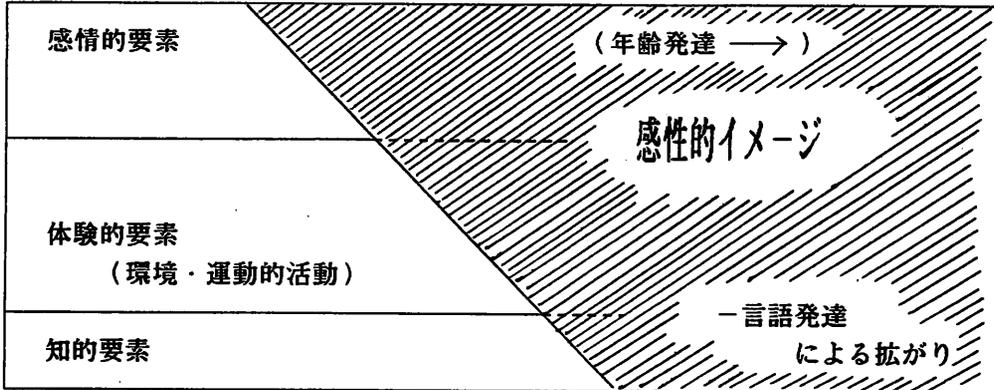
今回の研究は、幼児の“心”を育てるべく“味わい”の音楽を指向し、その視点としての“和音色”への挑戦であった。キーストーンは、“楽しいイメージの中に遊ぶ情動のはたらき”ということになる。

見事な和音色感、楽しい心象を伴ってやわらかい感性～豊かな音楽性の育ちとなって花開

いていることが分かった。恵まれたこの時代性の真っ只中に生きる現代幼児、どうやら既成の判断をくつがえして、目覚め、芽生えを見せ始めているということができよう。

結論を図4のようにまとめて終わることにしたい。

図4 事例にみる“和音色”の感性的イメージ



なお関連する今後の研究課題として、次のテーマが残されている。

- “音楽的能力において、両性間の調整を特に必要としない”とする一般の見解——この性差の問題に焦点化した実証的な研究
- “態度や動機づけが重要な要因になる”とする指導観に向けた臨床的な研究

### 注及び参考文献

- 1) 拙著「子どもの生活に見られる音楽的行動」静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇) 第16号 1985
- 2) Rudolf E. Radocy/J. DavidBoyle: Psychological Foundations of Musical Behavior 徳丸吉彦・藤田美美子・北川純子共訳、音楽の友社1985、及び Rosamund Shuter: The Psychology of Musical Ability 貫行子訳、音楽の友社1977の中に、和音要素の知覚～その発達に関する研究、また、Wing. Seashore. Gordon などによる音楽的能力の発達に関する研究のなかでも「和音～和声の知覚は後天的なもの」とする一般的な見解が述べられている
- 3) 拙著「和音色の識別能力の発達」日本保育学会研究論文集第45回 1992
- 4) 清野美佐緒「感性の心理学的基礎」季刊音楽教育研究第31巻43号 音楽の友社1954

- 5) 下総皖一『和聲學』共益商社書店1935
- 6) 飯田秀一「基礎指導への提言－和音色の指導」教育音楽 音楽の友社 1966
- 7) 住悦子「音感教育について“特に和音感の年齢的発達について”」富山女子短期大学紀要 第5 1972
- 8) 桜井琴音「幼児の音楽活動についての一考察－音楽的聴覚を中心に」佐賀短期大学紀要14号 1983
- 9) 相沢睦奥男『音楽的聴覚の研究』 音楽の友社 1952
- 10) 玉岡忍『音楽心理学』 金子書房 1952
- 11) 関計夫『新しい音楽心理学』 音楽の友社 1967
- 12) Maslow, A H : Motivation and Personality : 小口忠彦訳 産業能率大学出版会 1971
- 13) 津守真『子どもの世界をどうみるか』NHKブックス 1987
- 14) 小林美実「幼児文化財の姿－1 音楽リズム」保育学研究日本保育学会編 1991